

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101974		
法人名	医療法人社団 静隆会		
事業所名	グループホーム曳馬の家 1号館		
所在地	浜松市中区曳馬3丁目12-5		
自己評価作成日	令和元年6月4日	評価結果市町村受理日	令和元年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2277101974-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別な支援を受けながら生活をしていくのではなく、その人らしい生活を送るために自然な形は何なのかを常に考え、個別支援を提供できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者にとってお嫁さん、息子さん、お孫さんのような存在として在りたい」として「施設だけでなく家庭のように」をモットーに、職員にも「時間でおこなわない」「一人ひとりちがうのだから画一的にしない」といったことを常々管理者が伝えています。毎年管理者特製のシソの葉ジュースが夏の風物詩となっていて、透明感のある紅の清々しさと水分摂取、クエン酸での食欲増進、糖分増加と、高齢者にとって栄養満点の暑気払いとなっています。職員も「のんびりしているのが此処のいいところ」と言うだけあって、個が尊重され「(朝5時半から6時には)珈琲が飲みたい」といった要望が介護計画書にも反映され、本人の満足に至っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所、見覚えのある場所でその人らしい生活ができるように一人ひとりの考えを大切に、入居者中心の支援をしています。	事業所の数箇所に理念を掲示しています。利用者同士でアクティビティに取り組む姿に、間に入りたり手を出さずに見守ることができていることから、「どんなときも、あたたかく、やさしいまなざしで」が実現していることが覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事には参加させていただいています。介護教室にも参加させていただき地域の方の率直な思いをきかせていただきました。毎年近隣中学の福祉体験学習の受け入れをしています。	近くのグループホームとは運営推進会議をお互いに行き来したり、中学生の福祉体験の受入も駅前の好立地のため各中学校から人気で毎年オファーがあります。また野菜が沢山採れると近所に届けたりと、多様な場面で地域とのふれあいがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて現在の状況や日ごろの様子などを話をして、理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、サービスの取り組み等話をさせていただいています。会議に出席されないご家族様にも面会時にはお話を伺ったり、ご家族様からの意見を大切にしています。	「桜の木が老朽化しているから、散歩で気をつけてね」といった声も入り、また「ハーモニカボランティアがあったらいいな」との事業所の意向も汲んで協力してもらっていて、総じて自治会長には運営推進会議の活性化を担ってもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席いただき、不安に思ったりわからないことなどは、そのままにせず確認をするようにしています。	日頃の関係から、地域包括支援センターの母体である介護老人保健施設からは新規入居者の問い合わせが都度入っています。また地域包括支援センター主宰の介護教室では管理者がゲストスピーチをする機会もあり、悩み相談にまで及んだ事もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を3か月に1度職員会議の中で開催し情報の共有と意見交換、勉強の場を提供しています。	昨年度4月の法改正に係る指針の作成、身体的拘束適正化委員会の開催、研修会の実施があることを確認しました。また「一人ひとりを大切としたケアを私たちはサポートします」という理念を実践していることは職員の言動から受けとめることができます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束等適正化委員会でも虐待についての話はしています。虐待は認知症の人に多いというデータから、今一度認知症の理解から確認しています。委員会の席で勉強会を開催したり、テキストを用意して回覧していたくようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解を深めるように冊子等が配布されたときは回覧目を通して頂いています。入居者やご家族の意向は大切にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っています。不安なことや、心配事などは必ず聞き取り、リスクを踏まえて話ができるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望は随時受け付けています。ご家族の希望や要望などはなるべくかなうように対応しています。外部者への問い合わせなどはご家族が目につきやすいところにパンフレットなどを貼っています。	後見人がついたり家族が遠方というケースもあって、キーパーソンには各ユニットリーダーが手書きで毎月情報を届けています。また家族に渡したい書類や情報を利用者ごとにレターラックに入れて職員が日々共用しており、居室担当制は敷かず全員担当の姿勢で取組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館各々のやり方や入居者の状態の違いを理解し、提案があった場合は否定せずまず行ってみることを心がけています。各館が自発的に行える環境を提供するようにしています。	情報として押さえておくべき点は共有したいとして、月次の全体での定例会、カンファレンスと呼ぶミーティングが毎日30分程ユニット毎に慣行されています。職員寄贈の扇風機を有効活用したいとして、取り付け費を本部に申請して許可を得た例をはじめ、進言を実現させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見を大切にし、耳を傾け働きやすい環境整備を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加していただいています。新人職員には新人教育プラン計画を立て、目標をもって働けるように整備しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのつながりを大切にしています。近隣のグループホームの方にも運営推進会議に参加していただいています。お互いに情報共有につとめています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の資料を参考にし、今までの生活環境を理解しながら対応しています。より良い関係性を保てるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から対応できることやリスクなどを含めて話をさせていただいています。入る前から安心してもらえるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族より情報を聞きながらアセスメントを行いケアプランの作成をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いは常に大切にしています。今までやってきたことは継続して行えるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どうしたら本人にとって一番良いのかご家族を交えて話し合いをしながら支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人様の来設はいつでも来ていただけるように声掛けをしています。	夏の暑い日でも編み物をする人もいたり、在宅の頃からリハビリ意識が高く折り紙に熱中する人は、今では指先がスムーズとなり自身で箸をつかって食事ができるようになっています。家族の面会は月1回程ですが、通院介助の折に食事をして戻ってくる事もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室やリビングでの入居者同士の会話はあまり口出しをせず、楽しんでいただけるように見守っています。一人を好む方には時々居室へ出向き声掛けをするようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までも野菜を届けてくださる方がいたり以前入居されていた方のご家族様が紹介してくださったりしています。何か困ったことがあったらいつでも相談に来ていただけるように声掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛けや何気ない会話やしぐさの中からも思いくみ取り希望や意向を話が苦手な方からでも把握できるように努めています。	目が不自由な利用者を外出に誘うと「怖いからいい」と言っていました。ふとしたことから「散歩に行きたい」との声を受け止めることができ、家族と相談して目の手術に至った例もあり、毎日書くことが義務づけられている「介護記録」には発語も含め、詳細に記録が残されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や支援者さまより情報をいただき、それまでの生活リズムに近い生活をしていただけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握しながらそこに沿った支援が提供できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	からなずご本人、ご家族に希望の確認をしています。担当館の職員にも全員から話を聞き、記録も反映させながら計画を立てています。	「(朝5時半から6時には)珈琲が飲みたい」「ちょっと苦いのがいい」との要望は介護計画書にも反映され、本人の満足に至っています。また意見を言える利用者にはサービス担当者会議にも出席してもらい、希望に沿った介護計画書となるよう図られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録の記入をこまめに行い、意見交換をしながら介護計画の作成に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況やご家族の要望に応じて、見合ったサービス等紹介できるように取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の催しなどに出かけて楽しみを味わえるようにしています。地域のボランティアの方に協力していただけるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の状況やご家族の希望を主治医に伝え、時には主治医の変更など考えながら対応しています。協力医においては職員が同行し状況をお伝えしています。	2つある協力医に全員が変更しており、職員が月1回の定期受診の介助をおこなっています。また重度化して通院が難しくなると訪問診療くださる医院に替わってもらっていて、現在6名が月2回事業所で受診しています。記録は「介護記録」に記載しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に2回来設し健康管理を行っています。何かあるときには事前にお伝えし指示をいただき協力医やかかりつけ医への情報提供をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スムーズに対応できるように情報提供をしています。退院に向けてはご家族や相談員、病棟看護師から話を聞いたり、面会に行き、状態の把握につとめています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期についてはご家族の意向を大切にしています。ご家族が納得できた場合のみターミナルケアを行うこともあります。	今年に入っただけでも5名のお見送りをおこなっていて、27名と利用者も多い為日常の中にターミナルケアがあります。思い入れのある反面業務化している点もあって、「やりきった」「頑張った」充足感、達成感で職員は気持ちを切り替えて、学びを次へと活かしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを把握し、それに沿った対応をしています。急変時は、他館職員も応援に入るように体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、水害想定等を含み年に2回の訓練を行っています。運営推進会議において地域の協力をお願いしています。	年2回の内1回は夜間想定で、火災の発生場所を1階、2階、3階と毎回替えて実施しています。備蓄は1.5日分ほどで、水がやや足りないため台風など事前情報があるときは鍋や浴槽に水を溜めています。	次の2点を期待します。①地域の防災訓練への参加が実現するような工夫 ②備蓄に過不足はないかの見直し及び補完

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に乱れがないように注意を払っています。一人ひとり違うのでその人にあった言葉かけになるように対応しています。	職員は問いかけや気配り、目配りがやんわりとしていて、いい意味で距離感もあって、一人ひとりに立ち入らず黒子になっている様子を視認しました。利用者もこころなしか甘えている様子で、日頃の信頼関係が垣間見えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が何をしたいのか、傾聴し、自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を大切にしています。日々の変化にも柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には出張の美容師にカットを依頼し、身だしなみを整えています。常の洋服も、自分で選んだり、好みに合ったものを着ていただいたり一緒にコーディネートを考えたりしながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けはもちろんのこと、盛り付けにも気を配るようにしています。ちょうど食事のときに見たいテレビがあるときは、食事時間を少しずらして提供したりしています。出来る方は自主的に片付けの手伝いやテーブル拭き、食器拭きをしていただきます。	主菜、副菜は業者から運ばれてきており、職員が盛り付けの際に必要なに応じて食べやすい形状(刻みやミキサー)にしています。おやつはできるだけ手作りを目とし、蒸しケーキやホットケーキ、お好み焼き、お汁粉などが人気です。	レクリエーションの一環としたり(餃子パーティー、BBQ)、またお祝いとして誕生日のお赤飯など、常には業者搬入のため食の喜びをあらためて見直すことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をつけ一人ひとりに見合った量や加工で提供しています。好みの飲み物を把握して、時間に関係なく飲んでいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態によっては、毎食後、夕食後には全員口腔ケアを行っています。自らできない方に対しては、声掛け、介助にて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、時間を決めてトイレ介助するだけでなく、行動やしぐさからも察知してトイレに行けるように支援しています。	排泄チェック表はつけていません。失禁予防体操(股関節)をおこなうと筋肉がつくからか溜めておく作用が高まったり、尿意感覚が増しているように見受けられることが多々あるため、職員も時間を作って応援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前に適度な運動をしています。自然排便が困難な方にはチェック表を作成し、主治医、看護師のもと適切な内服薬の処方をお願いしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に注意しながら希望に沿った入浴ができるように支援しています。入浴できない方は、衣類の交換や清拭等を行っています。	週2、3回を目安に湯をはり、重度化で清拭となった数名を除いて湯に浸かる喜びを味わって欲しいとしているものの、実際は本人が怖がったり、嫌がったりもあって、シャワー浴となる場合もあります。実ったヘチマで簡易タオルとしたり、お茶風呂や蜜柑の皮を浮かべる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、寝具、空調、照明など個々の好みに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬についてお薬の説明書をとっておき、内容の確認をしています。予約時は、日付、名前の確認、飲み込みの確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとが継続していけるようにご家族にも協力して頂いています。気分転換に外気浴や買い物に出かけたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、一緒に買い物に出かけています。ご家族と受診に行かれた後に外食したり、ドライブを楽しまれる方もいます。	年間の外出行事としては初詣や公民館祭り、夏祭りがあります。数百メートル圏内にチェーンショップやコンビニエンスストア、信用金庫など地域資源が集積した場所なため、散歩の行き先には困りません。「あそこに行きたい」との要望が常にある人は介護計画書へ記載があります。	誕生日月には職員とマンツーマンで喫茶店でお茶とケーキを堪能する、といった機会があると、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得ている方は、金銭を所持されています。買い物時、自分で支払うなどしています。もっていない方も希望のものが買えるなど支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を掛けたり、かかってきた電話に出たりすることがあります。携帯電話を持参されている方もいます。手紙をもらったときは返事が出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁紙の作成を一緒にしています。南側には季節に応じていろいろな花が咲き季節感を味わえます。	各階、季節の花が飾られ、掃除も毎日掃除機をかけていて行き届いています。利用者の中には「自分の部屋から玄関まで」と、流れと範囲を把握している人もいます。壁に掲示されている自身の作品を眺めてご満悦の利用者もいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでお話しされたり、時にはテレビの前のソファに座り鑑賞したり、思い思いに過ごすことができるように声掛けや介助をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者になじみのものをもっていただいています。危険がないように、配慮しながら、写真や花を飾り居心地よく過ごせるように支援しています。	ベッド、カーテン付クローゼット(ロッカー)、洗面台が予め配され、テレビやプラスチックの衣類ケース以外の持ち込みはほとんど見られません。愛着があるのか、中には立派な羽子板を自宅から持参した人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、居室、廊下、トイレ、ふろ場等手すりが取りつけてあります。一人ひとりなるべく自力でかつ、安全に生活できる環境になっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101974		
法人名	医療法人社団 静隆会		
事業所名	グループホーム曳馬の家 2号館		
所在地	浜松市中区曳馬3丁目12-5		
自己評価作成日	令和元年6月4日	評価結果市町村受理日	令和元年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2277101974-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別な支援を受けながら生活をしていくのではなく、その人らしい生活を送るために自然な形は何なのかを常に考え、個別支援を提供できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者にとってお嫁さん、息子さん、お孫さんのような存在として在りたい」として「施設だけれど家庭のように」をモットーに、職員にも「時間でおこなわない」「一人ひとりちがうのだから画一的にしない」といったことを常々管理者が伝えていきます。毎年管理者特製のシソの葉ジュースが夏の風物詩となっていて、透明感のある紅の清々しさと水分摂取、クエン酸での食欲増進、糖分増加と、高齢者にとって栄養満点の暑気払いとなっています。職員も「のんびりしているのが此処のいいところ」と言うだけあって、個が尊重され「(朝5時半から6時には)珈琲が飲みたい」といった要望が介護計画書にも反映され、本人の満足に至っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所、見覚えのある場所でその人らしい生活ができるように一人ひとりの考えを大切に、入居者中心の支援をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には参加させていただいています。介護教室にも参加させていただき地域の方の率直な思いをきかせていただきました。毎年近隣中学の福祉体験学習の受け入れをしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて現在の状況や日ごろの様子などを話をして、理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、サービスの取り組み等話をさせていただいています。会議に出席されないご家族様にも面会時にはお話しを伺ったり、ご家族様からの意見を大切にしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、不安に思ったりわからないことなどは、そのままにせず確認をするようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を3か月に1度職員会議の中で開催し情報の共有と意見交換、勉強の場を提供しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束等適正化委員会でも虐待について話をしてしています。まずは認知症の理解からという思いがあることからテキストを読み理解を深めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解を深めるように冊子等が配布されたときは回覧目を通して頂いています。入居者やご家族の意向は大切にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っています。不安なことや、心配事などは必ず聞き取り、リスクを踏まえて話ができるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望は随時受け付けています。ご家族の希望や要望などはなるべくかなうように対応しています。外部者への問い合わせなどはご家族が目につきやすいところにパンフレットなどを貼っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館各々のやり方や入居者の状態の違いを理解し、提案があった場合は否定せずまず行ってみることを心がけています。各館が自発的に行える環境を提供するようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見を大切にし、耳を傾け働きやすい環境整備を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加していただいています。新人職員には新人教育プラン計画を立て、目標をもって働けるように整備しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのつながりを大切にしています。近隣のグループホームの方にも運営推進会議に参加していただいています。お互いに情報共有につとめています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の資料を参考にし、今までの生活環境を理解しながら対応しています。より良い関係性を保てるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から対応できることやリスクなどを含めて話をさせていただいています。入る前から安心してもらえるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族より情報を聞きながらアセスメントを行いケアプランの作成をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いは常に大切にしています。今までやってきたことは継続して行えるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どうしたら本人にとって一番良いのかご家族を交えて話し合いをしながら支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人様の来設はいつでも来ていただけるように声掛けをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室やリビングでの入居者同士の会話はあまり口出しをせず、楽しんでいただけるように見守っています。一人を好む方には時々居室へ出向き声掛けをするようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までも野菜を届けてくださる方がいたり以前入居されていた方のご家族様が紹介してくださったりしています。何か困ったことがあったらいつでも相談に来ていただけるように声掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛けや何気ない会話やしぐさの中からも思いくみ取り希望や意向を話が苦手な方からでも把握できるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や支援者さまより情報をいただき、それまでの生活リズムに近い生活をしていただけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握しながらそこに沿った支援が提供できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	からなずご本人、ご家族に希望の確認をしています。担当館の職員にも全員から話を聞き、記録も反映させながら計画を立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録の記入をこまめに行い、意見交換をしながら介護計画の作成に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況やご家族の要望に応じて、見合ったサービス等紹介できるように取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の催しなどに出かけて楽しみを味わえるようにしています。地域のボランティアの方に協力していただけるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の状況やご家族の希望を主治医に伝え、時には主治医の変更など考えながら対応しています。協力医においては職員が同行し状況をお伝えしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に2回来設し健康管理を行っています。何かあるときには事前にお伝えし指示をいただき協力医やかかりつけ医への情報提供をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スムーズに対応できるように情報提供をしています。退院に向けてはご家族や相談員、病棟看護師から話を聞いたり、面会に行き、状態の把握につとめています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期についてはご家族の意向を大切にしています。ご家族が納得できた場合のみターミナルケアを行うこともあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを把握し、それに沿った対応をしています。急変時は、他館職員も応援に入るように体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、水害想定等を含み年に2回の訓練を行っています。運営推進会議において地域の協力をお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に乱れがないように注意を払っています。一人ひとり違うのでその人にあった言葉かけになるように対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が何をしたいのか、傾聴し、自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を大切にしています。日々の変化にも柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には出張の美容師にカットを依頼し、身だしなみを整えています。常の洋服も、自分で選んだり、好みに合ったものを着ていただいたり一緒にコーディネートを考えたりしながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものや、アレルギーがある方がいますので、食事の工夫や、食べたいもの、食べられるものを用意して提供したりしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をつけ一人ひとりに見合った量や加工で提供しています。好みの飲み物を把握して、時間に関係なく飲んでいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態によっては、毎食後、夕食後には全員口腔ケアを行っています。自らできない方に対しては、声掛け、介助にて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、時間を決めてトイレ介助するだけでなく、行動やしぐさからも察知してトイレに行けるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前に適度な運動をしています。自然排便が困難な方にはチェック表を作成し、主治医、看護師のもと適切な内服薬の処方をお願いしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に注意しながら希望に沿った入浴ができるように支援しています。入浴できない方は、衣類の交換や清拭等を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、寝具、空調、照明など個々の好みに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬についてお薬の説明書をとっておき、内容の確認をしています。予約時は、日付、名前の確認、飲み込みの確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとが継続していかれるようにご家族にも協力して頂いています。気分転換に外気浴や買い物に出かけたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、一緒に買い物に出かけています。ご家族と受診に行かれた後に外食したり、ドライブを楽しまれる方もいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得ている方は、金銭を所持されています。買い物時、自分で支払うなどしています。もっていない方も希望のものが買えるなど支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を掛けたり、かかってきた電話に出たりすることがあります。携帯電話を持参されている方もいます。手紙をもらったときは返事が出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁紙の作成を一緒にしています。南側には季節に応じていろいろな花が咲き季節感を味わえます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでお話しされたり、時にはテレビの前のソファに座り鑑賞したり、思い思いに過ごすことができるように声掛けや介助をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者になじみのものをもってきていただいています。危険がないように、配慮しながら、写真や花を飾り居心地よく過ごせるように支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、居室、廊下、トイレ、ふろ場等手すりが取りつけてあります。一人ひとりなるべく自力でかつ、安全に生活できる環境になっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101974		
法人名	医療法人社団 静隆会		
事業所名	グループホーム曳馬の家 3号館		
所在地	浜松市中区曳馬3丁目12-5		
自己評価作成日	令和元年6月4日	評価結果市町村受理日	令和元年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2277101974-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別な支援を受けながら生活をしていくのではなく、その人らしい生活を送るために自然な形は何なのかを常に考え、個別支援を提供できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者にとってお嫁さん、息子さん、お孫さんのような存在として在りたい」として「施設だけでなく家庭のように」をモットーに、職員にも「時間でおこなわない」「一人ひとりちがうのだから画一的にしない」といったことを常々管理者が伝えていきます。毎年管理者特製のシソの葉ジュースが夏の風物詩となっていて、透明感のある紅の清々しさと水分摂取、クエン酸での食欲増進、糖分増加と、高齢者にとって栄養満点の暑気払いとなっています。職員も「のんびりしているのが此処のいいところ」と言うだけあって、個が尊重され「(朝5時半から6時には)珈琲が飲みたい」といった要望が介護計画書にも反映され、本人の満足に至っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所、見覚えのある場所でその人らしい生活ができるように一人ひとりの考えを大切に、入居者中心の支援をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には参加させていただいています。介護教室にも参加させていただき地域の方の率直な思いをきかせていただきました。毎年近隣中学の福祉体験学習の受け入れをしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて現在の状況や日ごろの様子などを話をして、理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、サービスの取り組み等話をさせていただいています。会議に出席されないご家族様にも面会時にはお話しを伺ったり、ご家族様からの意見を大切にしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、不安に思ったりわからないことなどは、そのままにせず確認をするようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を3か月に1度職員会議の中で開催し情報の共有と意見交換、勉強の場を提供しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束等適正化委員会でも虐待についての話はしています。虐待は認知症の人に多いというデータから、今一度認知症の理解から確認しています。委員会の席で勉強会を開催したり、テキストを読んで理解を深める努力をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解を深めるように冊子等が配布されたときは回覧目を通して頂いています。入居者やご家族の意向は大切にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っています。不安なことや、心配事などは必ず聞き取り、リスクを踏まえて話ができるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望は随時受け付けています。ご家族の希望や要望などはなるべくかなうように対応しています。外部者への問い合わせなどはご家族が目につきやすいところにパンフレットなどを貼っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館各々のやり方や入居者の状態の違いを理解し、提案があった場合は否定せずまず行ってみることを心がけています。各館が自発的に行える環境を提供するようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見を大切にし、耳を傾け働きやすい環境整備を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加していただいています。新人職員には新人教育プラン計画を立て、目標をもって働けるように整備しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのつながりを大切にしています。近隣のグループホームの方にも運営推進会議に参加していただいています。お互いに情報共有につとめています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の資料を参考にし、今までの生活環境を理解しながら対応しています。より良い関係性を保てるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から対応できることやリスクなどを含めて話をさせていただいています。入る前から安心してもらえるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族より情報を聞きながらアセスメントを行いケアプランの作成をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いは常に大切にしています。今までやってきたことは継続して行えるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どうしたら本人にとって一番良いのかご家族を交えて話し合いをしながら支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人様の来設はいつでも来ていただけるように声掛けをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室やリビングでの入居者同士の会話はあまり口出しをせず、楽しんでいただけるように見守っています。一人を好む方には時々居室へ出向き声掛けをするようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までも野菜を届けてくださる方がいたり以前入居されていた方のご家族様が紹介してくださったりしています。何か困ったことがあったらいつでも相談に来ていただけるように声掛けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛けや何気ない会話やしぐさの中からも思いくみ取り希望や意向を話が苦手な方からでも把握できるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や支援者さまより情報をいただき、それまでの生活リズムに近い生活をしていただけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握しながらそこに沿った支援が提供できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	からなずご本人、ご家族に希望の確認をしています。担当館の職員にも全員から話を聞き、記録も反映させながら計画を立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録の記入をこまめに行い、意見交換をしながら介護計画の作成に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況やご家族の要望に応じて、見合ったサービス等紹介できるように取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の催しなどに出かけて楽しみを味わえるようにしています。地域のボランティアの方に協力していただけるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の状況やご家族の希望を主治医に伝え、時には主治医の変更など考えながら対応しています。協力医においては職員が同行し状況をお伝えしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に2回来設し健康管理を行っています。何かあるときには事前にお伝えし指示をいただき協力医やかかりつけ医への情報提供をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スムーズに対応できるように情報提供をしています。退院に向けてはご家族や相談員、病棟看護師から話を聞いたり、面会に行き、状態の把握につとめています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期についてはご家族の意向を大切にしています。ご家族が納得できた場合のみターミナルケアを行うこともあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを把握し、それに沿った対応をしています。急変時は、他館職員も応援に入るように体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、水害想定等を含み年に2回の訓練を行っています。運営推進会議において地域の協力をお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に乱れがないように注意を払っています。一人ひとり違うのでその人にあった言葉かけになるように対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が何をしたいのか、傾聴し、自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を大切にしています。日々の変化にも柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には出張の美容師にカットを依頼し、身だしなみを整えています。常の洋服も、自分で選んだり、好みに合ったものを着ていただいたり一緒にコーディネートを考えたりしながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けはもちろんのこと、盛り付けにも気を配るようにしています。出来る方は自主的に片付けの手伝いやテーブル拭き、食器拭きをさせていただきます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をつけ一人ひとりに見合った量や加工で提供しています。お茶では水分摂取が難しい方には好みの飲み物を用意するようにしています。時間に関係なく飲んでいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態によっては、毎食後、夕食後には全員口腔ケアを行っています。自らできない方に対しては、声掛け、介助にて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、時間を決めてトイレ介助するだけでなく、行動やしぐさからも察知してトイレに行けるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前に適度な運動をしています。自然排便が困難な方にはチェック表を作成し、主治医、看護師のもと適切な内服薬の処方をお願いしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に注意しながら希望に沿った入浴ができるように支援しています。入浴できない方は、衣類の交換や清拭等を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、寝具、空調、照明など個々の好みに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬についてお薬の説明書をとっておき、内容の確認をしています。予約時は、日付、名前の確認、飲み込みの確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとが継続していかれるようにご家族にも協力して頂いています。気分転換に外気浴や買い物に出かけたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、一緒に買い物に出かけています。ご家族と受診に行かれた後に外食したり、ドライブを楽しまれる方もいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得ている方は、金銭を所持されています。買い物時、自分で支払うなどしています。もっていない方も希望のものが買えるなど支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を掛けたり、かかってきた電話に出たりすることがあります。携帯電話を持参されている方もいます。手紙をもらったときは返事が出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁紙の作成を一緒に行うようにしています。3階は光が入りやすく、温度も変わりやすいので、カーテンやエアコンで調整をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでお話しされたり、時にはテレビの前のソファに座り鑑賞したり、思い思いに過ごすことができるように声掛けや介助をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者になじみのものをもってきていただいています。危険がないように、配慮しながら、写真や花を飾り居心地よく過ごせるように支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、居室、廊下、トイレ、ふろ場等手すりが取りつけてあります。一人ひとりなるべく自力でかつ、安全に生活できる環境になっています。		